

# USHIO

## 2020年3月期 第1四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社

2019年7月31日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

\*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

\*2020年3月期 = FY2019

FY2019 1 Q :

**減収減益決算** となった原因

FY2019 通期予想 :

**通期公表値は変更なし** とする理由

通期公表値 売上高：1,700億円 営業利益：100億円

- I. FY2019 1Q 業績概況
- II. FY2019 今後の見通し
- III. 参考資料

連結売上高は前年同期比2.6%減の389億円  
連結営業利益は前年同期比15.3%減の21億円となり**減収減益決算**  
対通期公表値 進捗率 売上高 22.9% 営業利益 21.5%

**売上高** : 389億円 (前年同期比▲10億円、▲2.6%)

光源事業 : 固体光源化 及び 半導体・FPD市場低迷によりランプ需要減少  
装置事業 : 映像装置シネマ分野\_デジタルシネマプロジェクター販売台数減少

**営業利益** : 21億円 (前年同期比▲3億円、▲15.3%)

減収により減益

親会社株主に帰属する

**四半期純利益** : 12億円 (前年同期比▲10億円、▲44.5%)

※為替平均レート (FY19\_1Q) : 1USD = 111円

為替感応度 : 1円変動による影響額 (通期)

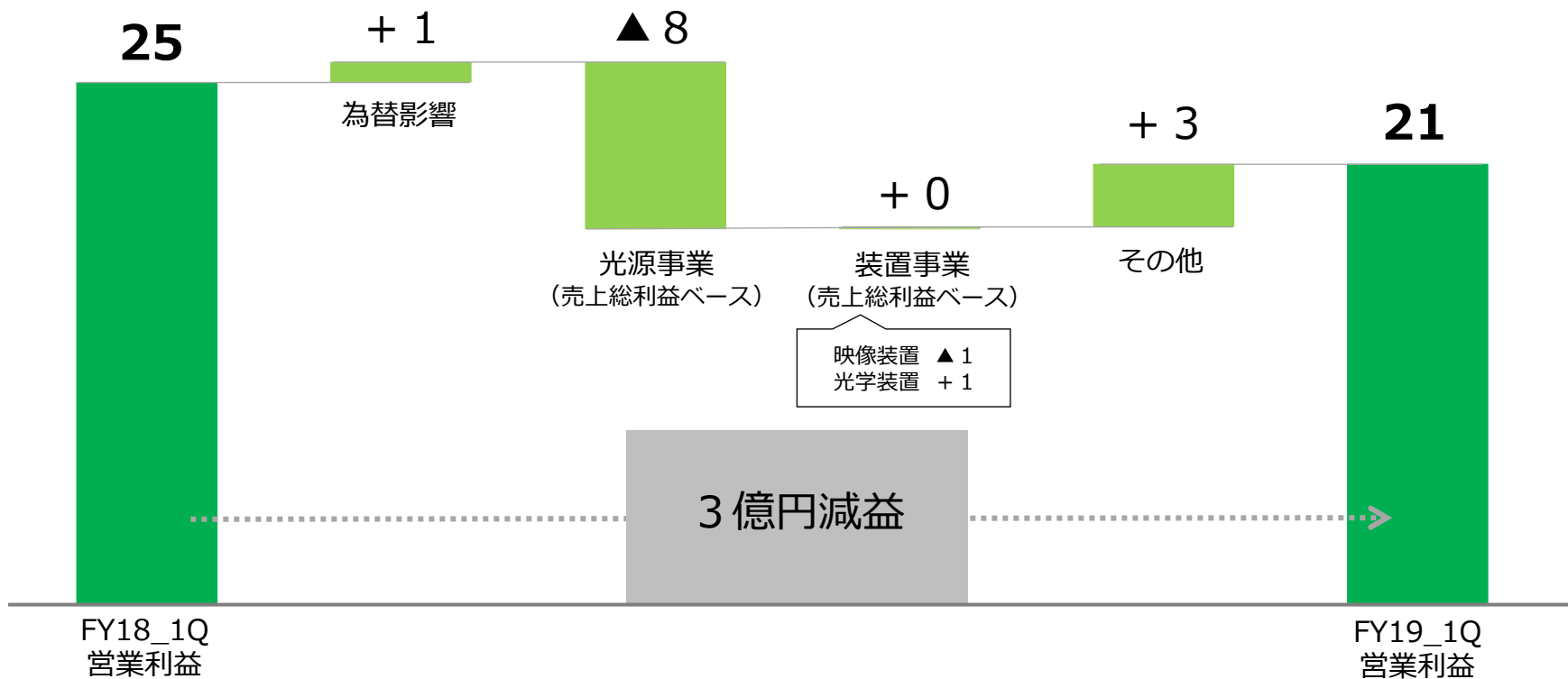
	売上高	営業利益
対USD	約10億円	約1.5億円

# 売上高・損益

単位：億円		FY18 1Q	FY19 1Q	前年同期比	
				増減	%
売上高		399	<b>389</b>	▲10	▲2.6
営業利益		25	<b>21</b>	▲3	▲15.3
営業利益率(%)		6.4	<b>5.5</b>	▲0.8P	—
経常利益		39	<b>29</b>	▲9	▲24.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益		22	<b>12</b>	▲10	▲44.5
EPS (円)		17.67	<b>10.02</b>	▲7.65	▲43.3
為替レート (円)	USD	108	<b>111</b>	+3	-
	EUR	130	<b>124</b>	▲6	-

# 前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円



注：「光源事業（売上総利益ベース）」～「その他」の要因は、「為替影響」を除いた金額。

# セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

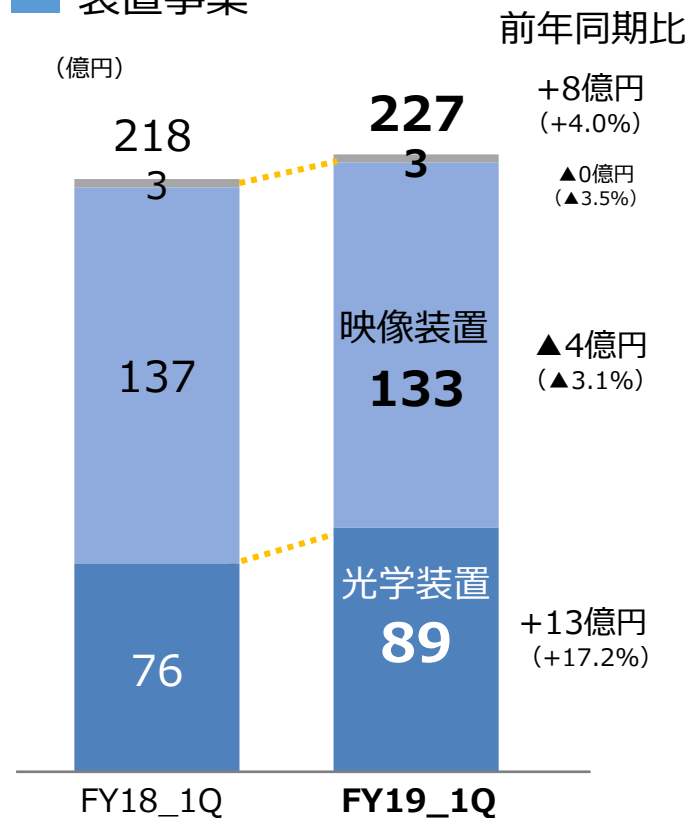
単位：億円

		FY18 1Q	FY19 1Q	前年同期比	
				増減	%
装置事業	売上高	218	<b>227</b>	+8	+4.0
	営業利益	0	<b>0</b>	+0	-
	営業利益率 (%)	0.0	<b>0.4</b>	+0.4P	-
光源事業	売上高	173	<b>154</b>	▲18	▲10.6
	営業利益	25	<b>19</b>	▲6	▲24.2
	営業利益率 (%)	14.8	<b>12.5</b>	▲2.3P	-
その他	売上高	7	<b>7</b>	▲0	▲9.3
	営業利益	0	<b>0</b>	▲0	▲24.6
	営業利益率 (%)	3.0	<b>2.5</b>	▲0.5P	-
全社・消去	営業利益	▲0	<b>1</b>	+1	-

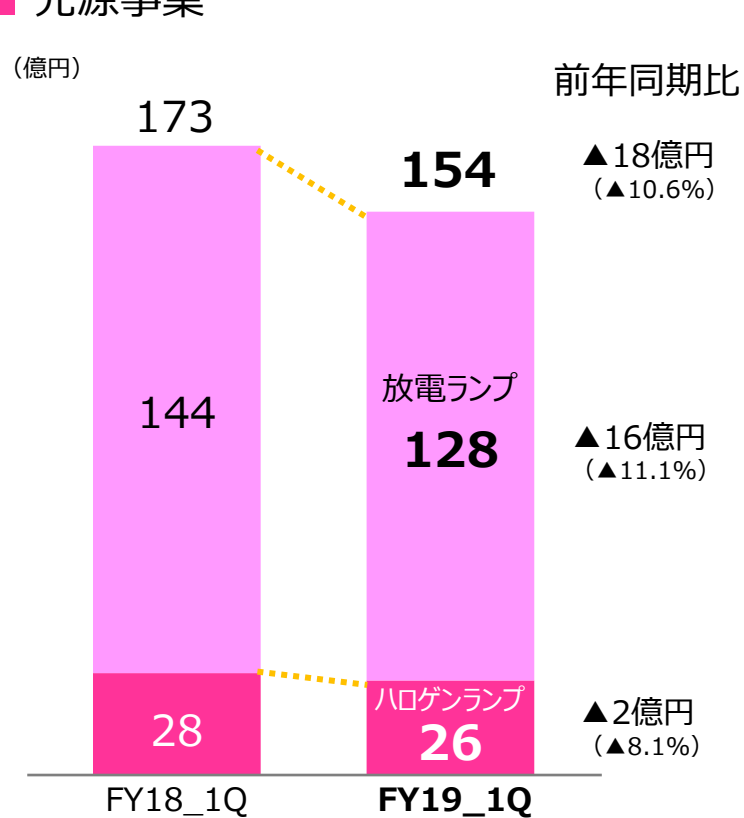
注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

## セグメント別売上高 概況

## ■ 装置事業



## ■ 光源事業



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載



# 事業環境 および セグメント別売上高 概略

市場	事業環境	装置事業 (前年同期比：■光学装置+17.2%、■映像装置▲3.1%)	光源事業 (前年同期比：■放電ランプ▲11.1%、■ハロゲンランプ▲8.1%)
エレクトロニクス分野	<b>半導体・電子部品関連市場</b> ・電子デバイス需要は堅調（スマートフォン、車載向け等） ・半導体及びプリント基板は投資・稼働ともに低調 ・次世代パッケージ向け新規需要が増加	<b>■ UV装置：▲1%</b> ・電子デバイス向け投影露光装置が堅調 ・プリント基板向け直描式露光装置が減少	<b>■ UVランプ：▲12%</b> ・大型液晶パネル向けは堅調 ・OLED及び半導体・プリント基板向けは低調
	<b>FPD関連市場</b> ・中国での大型液晶パネル投資が継続 ・OLED設備投資抑制が継続 ・中小型パネル（液晶・OLED）の稼働は低調	<b>■ キュア装置：+64%</b> ・大型パネル向け液晶関連装置が増加 ・光配向装置は減少	
ビジュアルイメージング分野	<b>シネマ分野</b> ・映画館新設数は鈍化 ・固体光源（レーザー）プロジェクター採用が拡大	<b>■ シネマ：▲9%</b> ・DCP販売台数が減少 ・RGBレーザープロジェクターの割合は徐々に増加	<b>■ シネマ用ランプ：▲21%</b> ・競争激化により単価が下落 ・長時間使用が拡大
	<b>一般映像分野</b> ・映像機器需要は堅調 ・固体光源（レーザー）プロジェクター採用が拡大	<b>■ 一般映像：+3%</b> ・エンタメ向けRGBレーザープロジェクターが好調	<b>■ データプロジェクター用ランプ：▲18%</b> ・固体光源化によりランプ需要が減少
	<b>OA分野</b> ・OA機器需要は堅調	-	<b>■ OA用ランプ：+2%</b> ・高付加価値な環境対応ランプが増加
共通	米中貿易摩擦による影響		影響は軽微

- I. FY2019 1Q 業績概況
- II. FY2019 今後の見通し
- III. 参考資料

変更なし

単位：億円	FY19 1Q	FY19 通期公表値	進捗率 (%)
売上高	389	<b>1,700</b>	22.9
営業利益	21	<b>100</b>	21.5
営業利益率 (%)	5.5	<b>5.9</b>	-
経常利益	29	<b>120</b>	24.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	12	<b>115</b>	10.9
EPS (円)	10.02	94.17	10.6
ROE (%)	-	5.4	-
1株当たり配当額 (円)	-	50	-
配当性向 (%)	-	53.1	-
為替レート (円)	USD	111	-
	EUR	124	-

# サブセグメント別売上高 進捗率／2 Q以降の見込み

単位：億円		FY19 通期予想	FY19 1Q	進捗率 (%)	2 Q以降 (コメント)	
売上高	装置事業	映像装置	590	<b>133</b>	22.6	大型案件向け出荷は2 Qより開始
		光学装置	400	<b>89</b>	22.4	最新ICパッケージ向け案件の検収は下期
		照明装置他	20	<b>3</b>	18.8	
		小計	1,010	<b>227</b>	22.5	
	光源事業	放電ランプ	540	<b>128</b>	23.8	・半導体及び中小型パネルの回復はFY20以降 ・シネマ用ランプの需要縮小は想定内で推移
		ハロゲンランプ	115	<b>26</b>	23.0	OA用途は堅調に推移
		小計	655	<b>154</b>	23.6	
	その他	産業機械他	35	<b>7</b>	20.6	
	合計		1,700	<b>389</b>	22.9	

## 映像装置

新製品RGBレーザープロジェクター販売拡大

### シネマ

RGBレーザーを搭載したシネマ向け  
各種プロジェクターの受注拡大

Christie RealLaserプロジェクター



大手シネコンチェーン受注確定  
Huaxia Film、Cinema21、Cineworld 等  
※Cineworld 受注情報（スライド24）

### 一般映像

RGBレーザーを搭載した一般映像向け  
D4K40の受注拡大

Christie D4K40-RGB



ドバイ国際博覧会 約250台設置予定  
アミューズメントパーク向け 等

## 光学装置

露光装置の新規需要増加

### 分割投影露光装置 （UX-5シリーズ）



IoT進展に伴う、  
大容量かつ高速データ処理用  
データセンター向けサーバーの需要増加

→ 最先端ICパッケージ基板の新たな需要増加

### ロール搬送投影露光装置 （UFXシリーズ）



スマートフォンをはじめ、  
ディスプレイ分野で  
OLEDの採用や狭額縁化が進む

→ フレキシブル基板の新たな需要増加

## 自社株買い

2018年12月公表の自社株買いの状況

2018年12月20日発表内容  
上限100億円  
(800万株)  
2018年12月21日～2019年12月20日

(2019年6月30日時点)

**買付け金額 : 46.4億円**    **進捗率 : 約46%**

## 1株当たり配当額

(2020年3月期予想)

**50円**

配当性向 : 53.1%

## 株主還元方針

当社は、株主各位に対する利益還元が企業として最重要課題の一つであることを常に認識し、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主各位に対し安定的・継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。自己株式の取得は機動的に実施します。保有する自己株式の上限は、発行済株式総数の5%を目途とし、その部分を上回る自己株式については毎年消却していきます。

- I. FY2019 1Q 業績概況
- II. FY2019 今後の見通し
- III. 参考資料**

## 四半期推移 《損益》

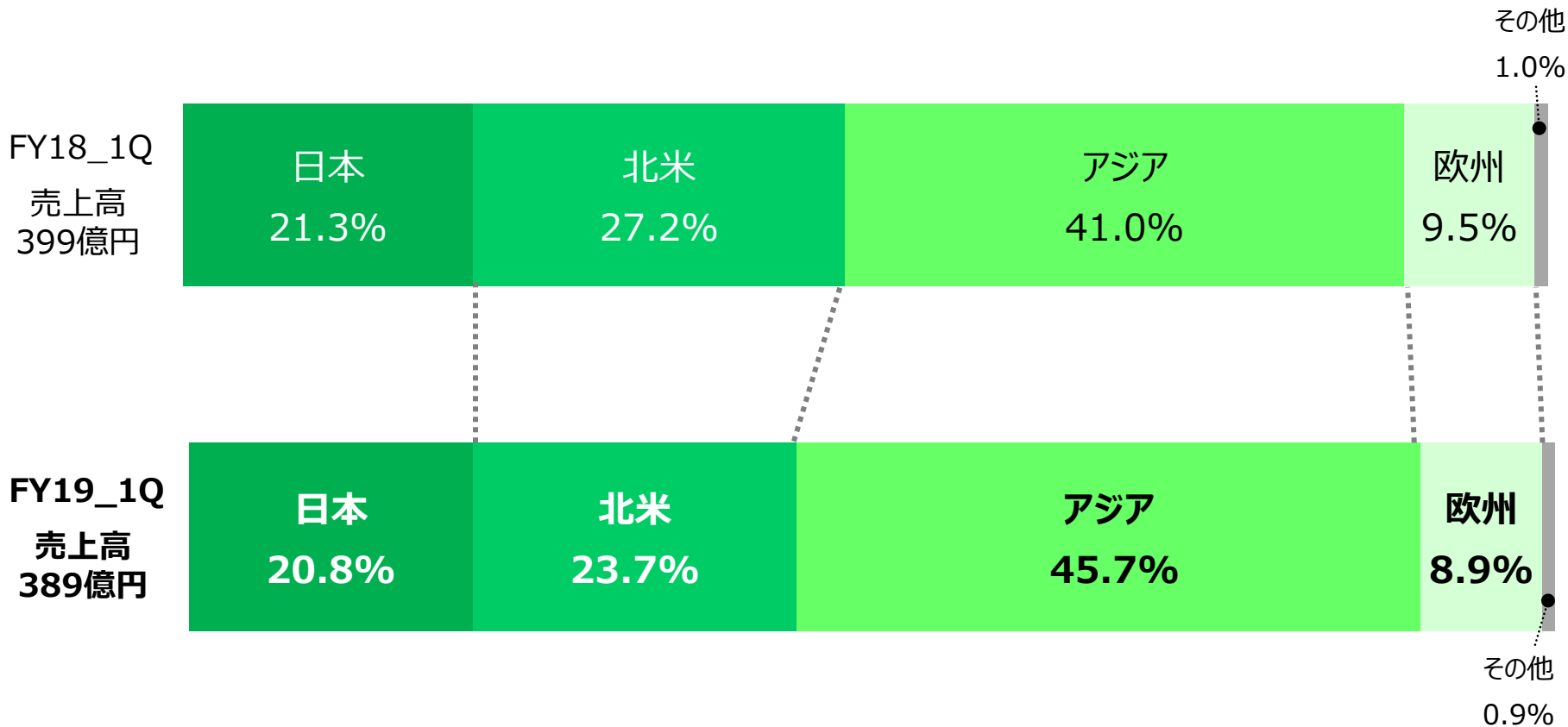
単位：億円		FY18				FY19	FY19 1Q - 1Q		FY19 1Q - 4Q	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減	%	増減	%
売上高		399	426	397	427	<b>389</b>	▲10	▲2.6	▲38	▲9.0
営業利益		25	28	15	16	<b>21</b>	▲3	▲15.3	+5	+34.1
営業利益 (%)		6.4	6.6	3.9	3.8	<b>5.5</b>	▲0.8P	-	+1.8P	-
経常利益		39	32	22	19	<b>29</b>	▲9	▲24.7	+10	+53.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益		22	12	21	56	<b>12</b>	▲10	▲44.5	▲43	▲77.8
EPS (円)		17.67	9.79	16.97	44.54	<b>10.02</b>	▲7.65	▲43.3	▲34.52	▲77.5
為替レート (円)	USD	108	111	113	110	<b>111</b>	+3	-	+1	-
	EUR	130	129	130	126	<b>124</b>	▲6	-	▲2	-



## 四半期推移 《セグメント別損益》

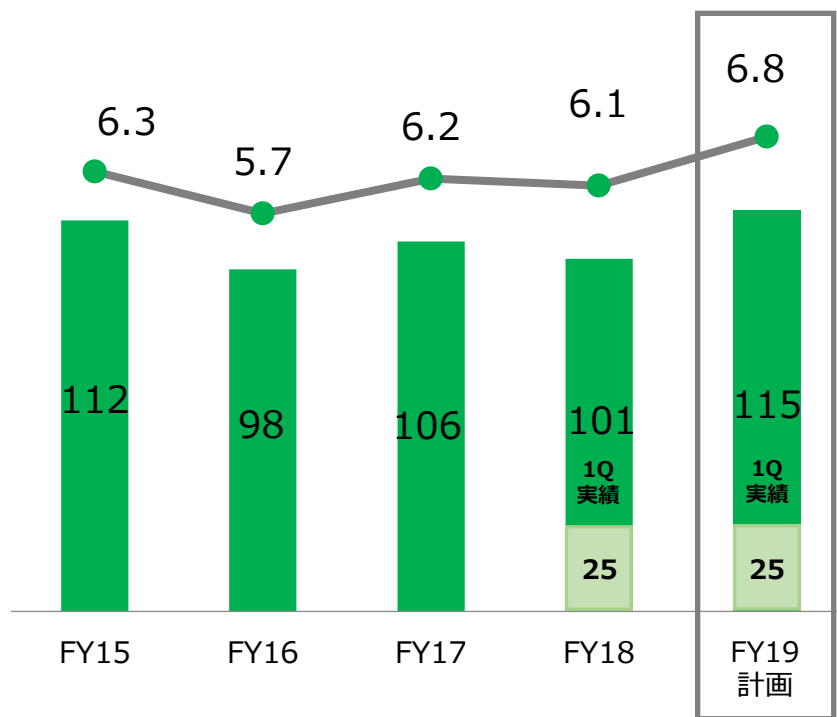
単位：億円	FY18				FY19	FY19 1Q - FY18 1Q		FY19 1Q - FY18 4Q	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減	%	増減	%
<b>装置事業</b>									
売上高	218	248	219	260	<b>227</b>	+8	+4.0	▲33	▲12.7
営業利益	0	1	▲4	▲0	<b>0</b>	+0	-	+1	-
営業利益率 (%)	0.0	0.7	▲2.1	▲0.1	<b>0.4</b>	+0.4P	-	+0.5P	-
<b>光源事業</b>									
売上高	173	172	171	155	<b>154</b>	▲18	▲10.6	▲0	▲0.4
営業利益	25	23	18	16	<b>19</b>	▲6	▲24.2	+2	+17.4
営業利益率 (%)	14.8	13.4	10.8	10.6	<b>12.5</b>	▲2.3P	-	+1.9P	-
<b>その他</b>									
売上高	7	6	7	11	<b>7</b>	▲0	▲9.3	▲4	▲39.1
営業利益	0	0	0	0	<b>0</b>	▲0	▲24.6	▲0	▲36.9
営業利益率 (%)	3.0	3.6	3.6	2.4	<b>2.5</b>	▲0.5P	-	+0.1P	-

# 地域別売上高比率

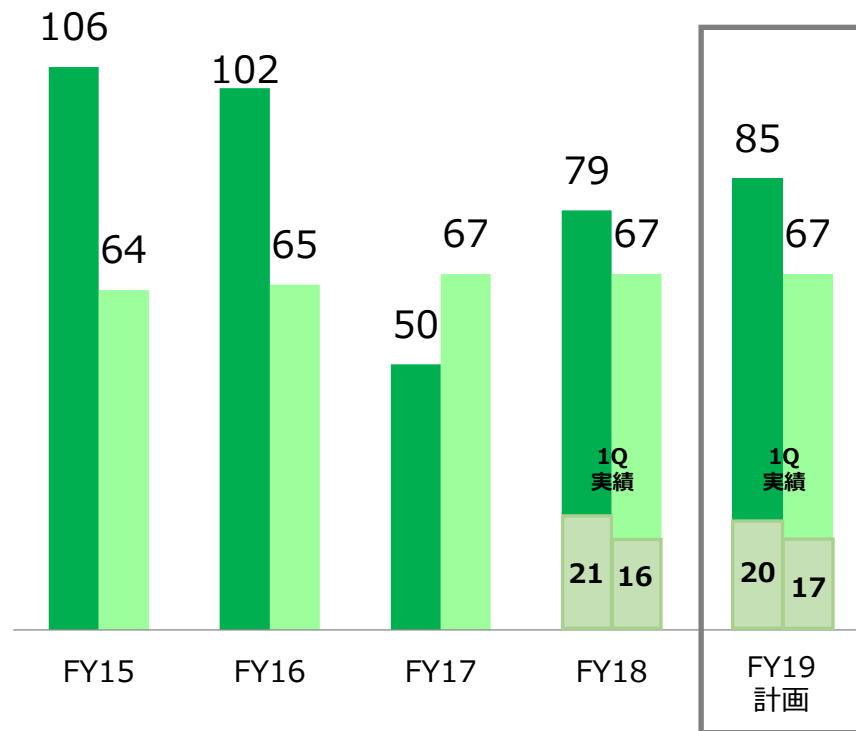


## 研究開発費／設備投資額・減価償却費

■ 研究開発費（億円）  
 — 売上高研究開発費率（%）

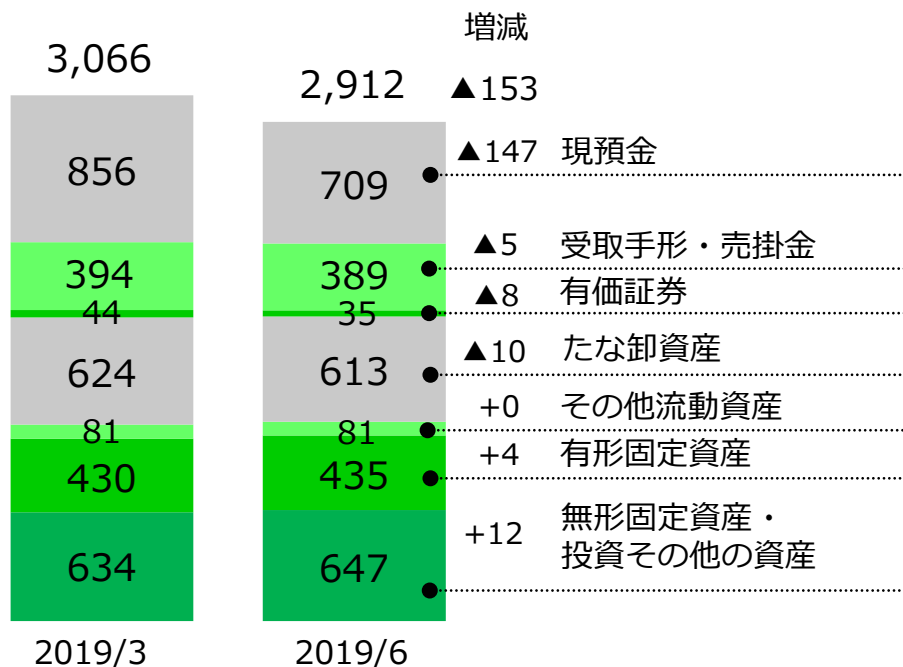


■ 設備投資額（億円）  
 ■ 減価償却費（億円）

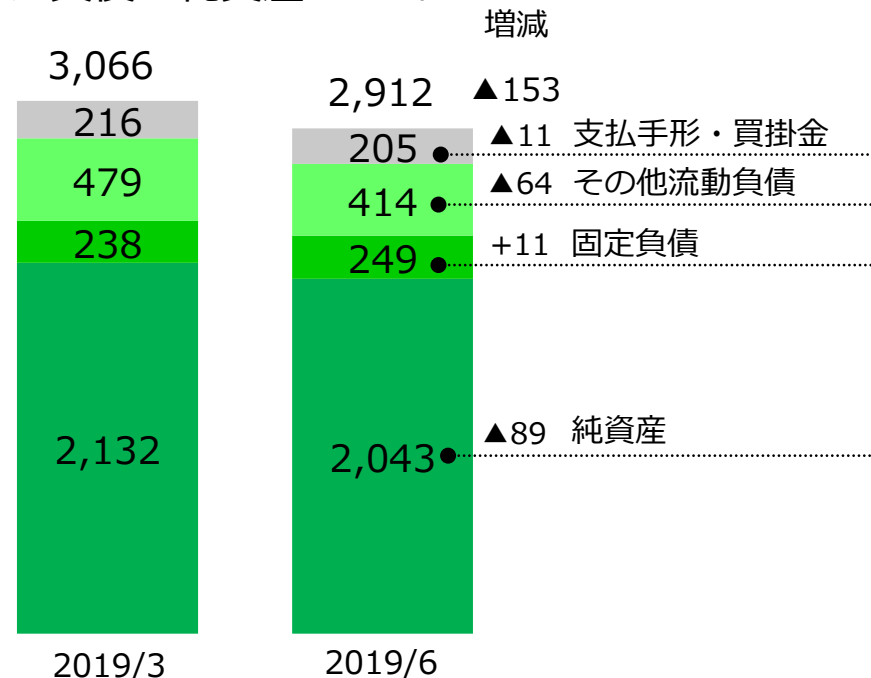


# 貸借対照表

## ◆ 資産 (億円)



## ◆ 負債・純資産 (億円)

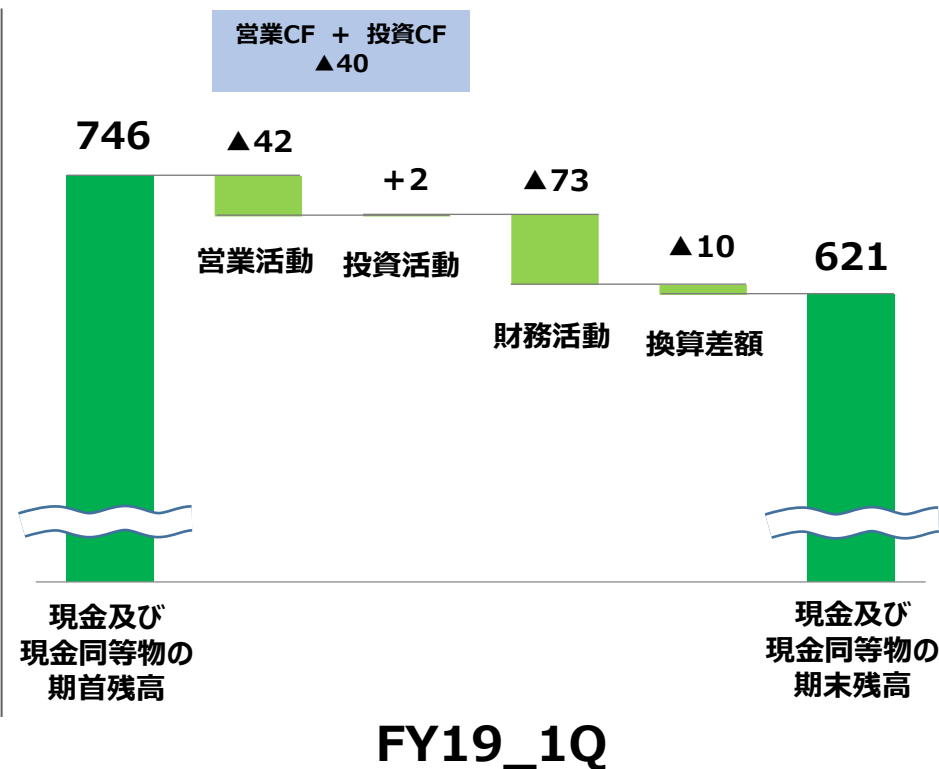
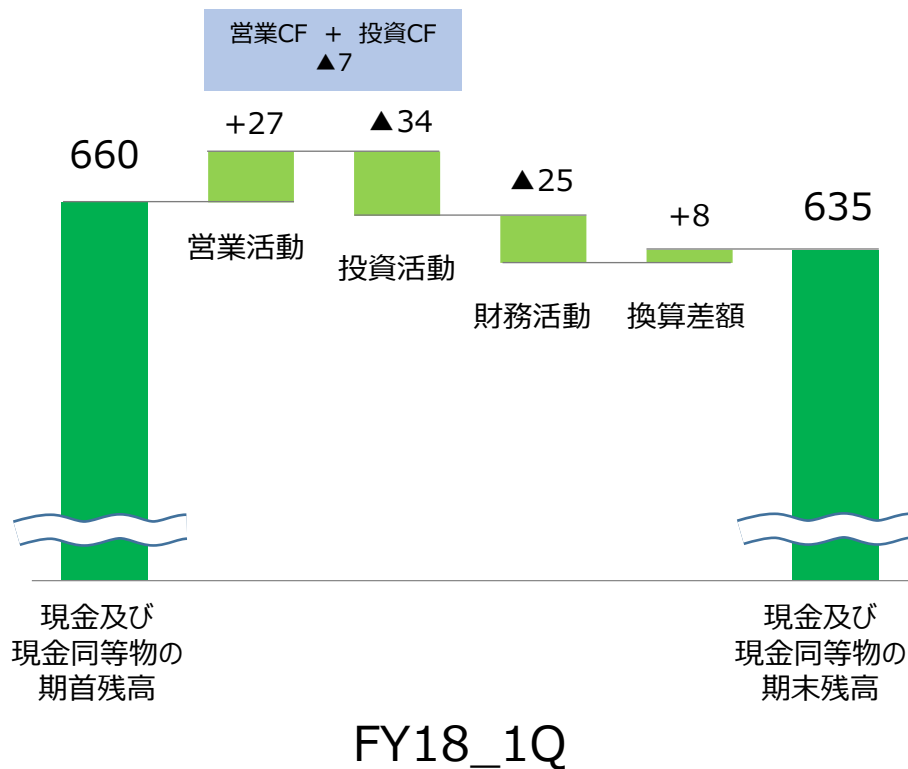


●回転月数 (ヶ月)	2019/3	2019/6
売上債権	3.0	3.0
たな卸資産	4.2	4.8

●自己資本比率 (%)	2019/3	2019/6
	69.5	70.1

## キャッシュフロー

単位：億円



# プロジェクター比較

光源	レーザー		ランプ	
	RGBレーザー	蛍光体レーザー	クセノンランプ	超高圧水銀ランプ
シネマ	 <p>CP2309-RGB CP4330-RGB 他 明るさ(lm) &lt;40,000</p>	<p>ラインナップなし</p>	 <p>CP2308 他 明るさ(lm) &lt;45,000</p>	<p>ラインナップなし</p>
一般映像	 <p>D4K40-RGB 明るさ(lm) &lt;40,000</p>	 <p>Crimson GS シリーズ 他 明るさ(lm) &lt;30,000</p>	 <p>Roadie 他 明るさ(lm) &lt;45,000</p>	 <p>Boxer 他 明るさ(lm) &lt;30,000</p>
本体価格	中 - 高	中	中	低
本体寿命	長	中	中 - 長*	中*
色	★★★	★	★★	★ または ★★★

\* ランプ交換が必要

ランププロジェクターの中で一般映像用の水銀ランプ・シネマ用のクセノンランプは、蛍光体レーザープロジェクターよりも寿命が長いことがあります。

# リリース：マスク検査用EUV光源を量産プロセス向けに初検収

## 先行稼働の研究開発機が高評価、EUV事業を加速

ウシオ電機株式会社は、この度、検査装置メーカーより受注している複数のEUVリソグラフィマスク検査装置用EUV光源（以下、EUV光源）のうち、量産プロセス向けEUV光源が初めて検収されましたのでお知らせ致します。

EUVリソグラフィは、高度な微細化が進む次世代半導体製造工程には欠かせない技術であり、大手デバイスメーカーを中心に実用化に向けた検証が進んでいますが、EUVリソグラフィを量産技術として確立するためには、高精細なマスクの欠陥を検査・検出するためのEUV光源の実用化が必須とされています。

ウシオは、オランダ応用科学研究機構（TNO：The Netherlands Organization for Applied Scientific Research）のEUV照射・分析用ファシリティ「EBL2」において、2017年3月から自社の高輝度SnLDP（レーザーアシストプラズマ放電方式）EUV光源※搭載機による各種研究・評価サービスを提供するなど、一貫して高輝度EUV光源の研究・開発に取り組み、性能と信頼性を向上させてきました。

今回の検収は、これらの実績に加え、検査装置メーカーに先行納入し、既に稼働している研究開発機向けEUV光源の性能が高く評価されたものです。これにより、次世代半導体製造工程の量産プロセスに必要な、高輝度EUV光を使用した“Actinic”なEUVリソグラフィ用マスク検査が可能となります。

※ SnLDP（レーザーアシストプラズマ放電方式）EUV光源

レーザーをトリガーとして電極上の錫を蒸発させ、その蒸発した錫を放電により発生させたプラズマで励起することでEUV光を取り出す方式。プラズマを発生させる錫をレーザーで励起させることでEUV光を取り出す「LPP/Sn方式」や、放電で発生させたプラズマでクセノンを励起することでEUV光を取り出す「DPP方式」に比べ、高輝度かつ省スペースが特長。

リリース全文：<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1003/2019-2019/500468.html>（2019年7月17日発表）



# リリース / 導入事例 : RGBレーザープロジェクター

## 世界第2位のシネマチェーンCineworldより1,000台以上のRGB機を受注

欧米10か国、9,500スクリーンを展開する世界第2位のシネマチェーンであるCineworldグループより、米国のグループ会社である、Regal社に設置する1,000台以上のRGBレーザープロジェクターを受注致しましたのでお知らせいたします。

Cineworldグループは、米国、イギリス、アイルランド、ポーランド、ルーマニア、イスラエル、ハンガリー、チェコ、ブルガリア、スロバキアに合計約9,500スクリーンを保有しています。

プレミアム・ラージ・フォーマット（PLF）から小型スクリーンまで幅広いRGBレーザープロジェクターを取り揃えており、様々な大きさのスクリーンをもつシネマコンプレックスでのプロジェクターの一括更新の要望にお応えしてまいります。

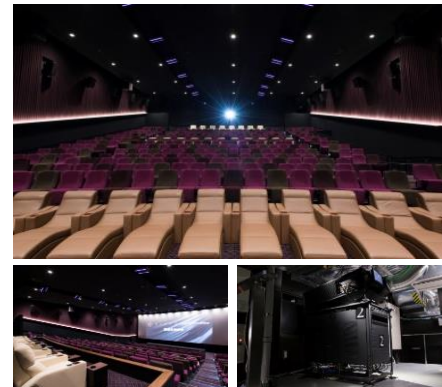
リリース全文 : <https://www.christiedigital.com/en-us/about-christie/news-room/press-releases/cineworld-to-acquire-more-than-1000-christie-rgb-lasers> (2019年6月18日発表)



## 新装シネマコンプレックスへ、クリスティ製RGBレーザープロジェクターを大規模導入

7月19日、国内最大規模の「IMAX®レーザー」シアターと日本初上陸の体感型「4DX with Screen X」シアターを備えた全12スクリーンからなる大型シネマコンプレックス「グランドシネマサンシャイン」がオープン。レーザープロジェクターを全館に導入した国内初の事例で、クリスティのRGBレーザーシネマプロジェクターが11スクリーンに採用されました。

当社の連結子会社であるジーベックスがRGBレーザープロジェクターを納入し、併せて、スクリーン、音響関連機器、シネマサーバーをはじめとする上映システムの構築・販売・施工を担当しました。





DCP	Digital Cinema Projector	デジタルシネマプロジェクター
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
IoT	Internet of Things	モノのインターネット
OA	Office Automation	オフィスオートメーション
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
PLF	Premium Large Format	通常の映画経験以上の高音質、没入感を追及したスクリーンなどのこと
RGB	Red Green Blue	赤 緑 青
UV	Ultraviolet	紫外

## USHIO

本資料に関するお問い合わせ先  
ウシオ電機（株）経営企画部  
(03) 5657-1007  
[ir@ushio.co.jp](mailto:ir@ushio.co.jp)  
<http://www.ushio.co.jp/jp/>